



Mai Takahashi

高橋 舞

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。オーストリア国立モーツァルトウム音楽大学大学院修士課程ピアノ・コンサート科修了。バッハに関する修士論文は最高評価を獲得、ウィーン国立音楽大学にて室内楽、チェンバロを学ぶ。
ステファノ・マリツァ国際ピアノコンクール、フロレンターノ・ロッソマンディ国際ピアノコンクール入賞。これまでにイタリア、ドイツ、オーストリア、ハンガリー、クロアチアにおいて演奏会に出演。2008年銀座王子ホールでのピアノ・リサイタルを機に、拠点を日本に移す。現在セミナー、コンサートを年間約50回開催。テーマを持ったレクチャー・コンサートには定評がある。桐朋講座講師。代官山ヒルサイドテラス「高橋舞の新音楽セミナー“聞けば、聴くほど”」講師。六本木シンフォニーサロン「高橋舞の六本木音楽セミナー」講師。2013年アメリカ、サン・ノゼでピアノ・マスター・クラスを開催。2014年5月セミナー受講生を対象に「高橋舞と巡るウィーン、ザルツブルクの旅」、2016年4月「同ドイツの旅」、2018年5月「同ハンガリーの旅」、2020年4月に「同フランスの旅」を実施。音楽によるボランティア活動にも力を入れている。東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻修士課程修了。現在、同博士課程在学中。

【高橋舞公式サイト】 <http://mai-takahashi.com/>

【高橋舞Facebook】 <https://www.facebook.com/piano.mai.takahashi>

渡辺 裕



Hiroshi Watanabe

1953年千葉県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科(美学芸術学)博士課程単位取得退学。博士(文学)。玉川大学助教授、大阪大学助教授、東京大学教授などを経て、現在東京音楽大学教授、東京大学名誉教授。2013年紫綬褒章受章。専門は聴覚文化論・音楽社会史。主な著書は『聴衆の誕生—ポストモダン時代の音楽文化』(1989,サントリー学芸賞)、『日本文化 モダン・ラブソディ』(2002,芸術選奨文部科学大臣新人賞)、『歌う国民—唱歌、校歌、うたごえ』(2010,芸術選奨文部科学大臣賞)、『サウンドとメディアの文化資源学—境界線上の音楽』(2014)、『まちあるき文化考：交差する〈都市〉と〈物語〉』(2019)ほか。「オリンピックと音楽」という今回のテーマとの関連では、『感性文化論：〈終わり〉と〈はじまり〉の戦後昭和史』(2017)において、日本人の感性のあり方が1968年前後を境に大きく変容したことを論ずる中で、1964年に行われたオリンピック東京大会を取り上げ、それがむしろ「戦前」的な感性や心性の延長線上に成り立っていたことを明らかにしている。



Bunkichi Arakawa

荒川 文吉

1992年、東京都出身。東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。これまでにオーボエを池田昭子、広田智之、青山聖樹、小畑善昭の各氏に師事。第82回日本音楽コンクール第2位及び岩谷賞(聴衆賞)受賞。第31回日本管打楽器コンクール第1位。Fernand Gillet-Hugo Fox Oboe Competition 2015第2位。The Muri Competition 2019(スイス)第1位及び聴衆賞受賞(日本人初受賞)。副賞として、ハインツ・ホリガー指揮チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団とモーツァルトのオーボエ協奏曲を共演。2014年、大学4年在学中に東京フィルハーモニー交響楽団に入団。現在、同楽団首席オーボエ奏者。2017年度アフィニス文化財団海外研修員としてベルリンへ留学。同年9月より2年間、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の「カラヤンアカデミー」に在籍。ジョナサン・ケリー氏に師事。2018年のサイモン・ラトル音楽監督退任演奏会を含む、多数のベルリンフィル本公演に出演。

代官山ヒルサイドテラス
クラブヒルサイドサロン
(ヒルサイドテラスアネックスB棟 2階)

東京都渋谷区猿樂町30-2
TEL:03-5489-1267

東急東横線 代官山駅より徒歩3分



【高橋舞の新音楽セミナー申込書】

申込先:株式会社オフィスklang
FAX 03-3334-6941 E-MAIL info@office-klang.com

*ご希望の回、または5回セットに☑してください。

第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 5回セット

ご氏名(ふりがな)

ご住所 〒

E-MAIL

TEL

FAX

頂きましたお客様の個人情報は厳正に取り扱い、本セミナーに関する連絡・確認以外には使用致しません。